

# 第8回“共創”自治協議会サミット

◆開催日時：令和元年 11 月 28 日（木）13:30～（13:00 開場）

◆開催場所：ももちパレス（福岡県立ももち文化センター）

大ホール

◆主 催：福岡市自治協議会等7区会長会，福岡市



# 第8回“共創”自治協議会サミットプログラム

(敬称略)

時間	プログラム
13:30	開会
13:40	自治貢献者感謝状贈呈式
14:10	<p>活動事例発表</p> <p>(城南区)  <b>強いきずなの地域づくりを目指した活動 ～ふるさとを創るつなげる愛唱歌～</b>            田島校区自治協議会 会長 上野 善和            田島クワイヤ メンバー 河野 和代</p> <p>(早良区)  <b>地域の強い“絆”づくり ～地域の助け合い・支え合い～</b>            協山校区自治協議会 会長 重松 重興</p> <p>(西区)  <b>灯明まつり ～みんなで創る ふるさと内浜～</b>            内浜校区自治協議会 会長 佐伯 利夫            内浜校区灯明まつり実行委員会 会長 渡邊 彰</p> <p>(共創①)  <b>地域にあった防災教室</b>            一般社団法人 福岡市土木建設協力会 防災委員会 委員長 城本 哲也</p> <p>(共創②)  <b>町内会とみんなで支える買い物支援</b>            月隈校区 金隈新町町内会 会長 谷口 達美            医療法人相生会 金隈病院 地域医療連携部 係長 浅井 綾子</p> <p>(東区)  <b>長谷ダム水がめまつり ～歴史豊かな自然と資源を活かしたふれあいと交流～</b>            香椎下原校区自治協議会 会長 丸岡 良光            香椎下原校区自治協議会 事務局 岡野 弘幸</p> <p>(博多区)  <b>敬老秋の観劇会 みんなでつながろう!東吉塚 ～東が吉!笑顔が中吉!!絆が大吉!!!～</b>            東吉塚校区自治協議会 会長 本石 満里子            東吉塚校区自治協議会 副会長 井本 佳名子</p> <p>(中央区)  <b>高宮校区ビジョン ～いつまでも住み続けたい楽しいまち高宮～</b>            高宮校区自治協議会 会長 山下 輝彦            高宮校区ビジョン 安全・安心なまち部会 部長 国広 奈穂子            高宮校区ビジョン 環境の良いまち部会 部長 豊福 茂隆            高宮校区ビジョン 絆のあるまち部会 部長 占部 操子</p> <p>(南区)  <b>孫の手サービスボランティア ～宮竹小・中学生がお手伝い～</b>            みやたけ会 会長 小西 彌好            みやたけ会 副会長・宮竹校区社会福祉協議会 会長 櫻井 千恵美            宮竹校区社会福祉協議会 事務局長 木本 千恵子</p>
16:00	閉会

# 福岡市自治貢献者感謝状贈呈者名簿

---

(敬称略 50音順)

## 感謝状

### (東 区)

照葉校区自治協議会

岡本 桂香

香椎浜校区自治協議会

永松 忠

### (中央区)

南当仁校区自治協議会

阿部 直俊

舞鶴自治協議会

三坂 克彦

### (南 区)

花畑校区自治協議会

才田 誠

### (早良区)

入部校区自治協議会

岩永 信行

# 活動事例発表

## 強いきずなの地域づくりを目指した活動 ～ふるさとを創るつなげる愛唱歌～

城南区 田島校区自治協議会  
田島クワイヤ

会長 上野 善和  
メンバー 河野 和代

### 校区の特徴

- ・樋井川沿いの西側、丘陵地帯を含んだ地域で、京ノ隈古墳など多数の古墳が確認されており、古来より人々が生活してきた地域である。
- ・幅員が狭く、起伏のある曲がりくねった道沿いに、戸建て住宅が建っている。
- ・高齢化率は区平均よりも高いが、一部でマンションも建設され、新たな住民も増えつつある。

### 【校区の現況】（令和元年9月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
10,527人	5,079世帯	2.1人	2,676人（25.4%）

### 活動について

#### 1. 概要

- ・田島自治協議会が主催する、新春の集い、たしまフェスタ（運動会や夏祭り）などの行事の際に、校区の愛唱歌「ここがふるさと」を歌っている。
- ・運動会では「ここがふるさと」で校区旗掲揚を行った。

#### 2. きっかけ

- ・田島校区自治協議会では、次世代の地域の担い手の育成が課題となっている。
- ・地域活動への参加には、活動に興味を抱くことはもとより、地域をよくしたい、盛り上げたいといった郷土愛が必要となることから、郷土愛を育成すべく、愛唱歌の歌唱を始めた。

#### 3. 経緯

- ・平成25年に田島公民館創立30周年記念事業で地域から歌詞を募り制作された校区の愛唱歌「ここがふるさと」。校区の主催行事で参加者みんなで歌っている。

#### 4. 成果

- ・行事ごとに演奏を耳にし、歌うことで、校区の「愛唱歌」として定着してきていると思われる。

#### 5. 苦労した点

- ・郷土愛や愛郷心については、一朝一夕に実るものではなく、醸成には時間がかかるため、取り組みには根気を要する。

## 6. 工夫した点

- ・行事で配布するプログラムに歌詞や楽譜を載せ、参加される方皆さんで歌えるようにしている。
- ・新春の集いではコーラスグループ「田島クワイヤ」に参加していただき、迫力ある歌声で、参加者の心に残る演奏をしてもらっている。

## 7. 今後の目標・課題

- ・愛唱歌の誕生から5年を経過し、どこかで耳にした住民が増えていると思う。
- ・今後は、田島校区に住むより多くの住民が歌い継いでいけるように、引き続き取り組みを行っていく。

### 皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・後継者不足や担い手不足は、多くの自治協議会が直面する課題と思う。より良い人材が、地域活動に参加し、活動していく原動力としての郷土愛や愛郷心を根付かせるために、歌という文化を通して故郷田島を愛する心を醸成していく。

どんど焼



田島神楽



文化祭



田島獅子頭巡行



田島フェスタ



田島クワイヤ



「ここがふるさと」

田島のみなさん／詩、道城美羽／作曲

一、たしまの春は どんど焼き

火柱高く舞い上がる

やがて桜も満開に

笑顔のつぼみ はじけてる

あの坂をのぼって

くだってまわり道

ひとつおぼえて

ここがふるさとになる

二、夏の賑わい 神楽舞

出店連ねて 心待ち

今もかわらず 大楠が

影を伸ばして 見守るよ

あの坂をのぼって

くだってまわり道

思い出かさね

ここがふるさとになる

三、たしまの秋は 文化祭

いちよう銀杏色づいて

ひとりひとりが晴れ舞台

笑顔の花が咲きほこる

あの坂をのぼって

くだってまわり道

ひとつおぼえて

ここがふるさとになる

# 地域の強い“絆”づくり ～地域の助け合い・支え合い～

早良区 脇山校区自治協議会 会長 重松 重興

## 校区の特徴

- ・早良区の最南端に位置し、面積は早良区全体の3分の1を占める。
- ・脊振山系に囲まれた自然豊かな校区で、約9割を山林と農地が占めており、水や空気、星空が美しく、自然環境を守るためホタルの里づくりに取り組んでいる。
- ・昭和3年、昭和天皇の大嘗祭にあたり供納米を栽培する「主基斎田」の地に脇山が選ばれ、その時に豊作祈願で舞った「お田植舞」は、小学校と自治協議会など地域が協力して保存・継承している。
- ・校区内の宅地の大部分が、県の「土砂災害特別警戒区域及び警戒区域」に指定されている。

### 【校区の現況】（令和元年9月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
2,293人	1,037世帯	2.2人	872人（38.0%）

## 活動について

### 1. 概要

- ・脇山校区は高齢化が著しく、日頃から、校区内にあるオイスカ西日本研修センター、早良高校、航空自衛隊など若い力の協力も得ながら事業を実施し、若い世代から高齢者との世代を超えた交流が深まっている。
- ・昨年7月、昭和38年以来という豪雨に見舞われ、脇山校区は多大な被害が発生した。それを契機に住民の自主防災意識が高まり、相互の“絆”を強め、地域で助け合い・支え合って、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる校区づくりに取り組んでいる。

### 2. きっかけ

- ・校区の高齢化率は年々約1%の割合で進行し、町内によっては二人に一人が高齢者という状況で、高齢者同士が共に助け合いながら生活する校区づくりが急務となった。
- ・昔から、「向こう三軒両隣」の助け合いの意識が強い校区であるが、昨年の災害対応を通して、改めて“絆”づくりの重要性を感じ始めた。

### 3. 経緯

- ・従来から高齢者の見守り活動は、社会福祉協議会の「ふれあいネットワーク」活動、老人クラブによる「友愛訪問」、地元消防団による消防点検などが個別に行われていたが、支援体制を一本化することで、平常時の高齢者見守り活動とともに災害時における支援体制をより堅固となるよう再構築することとした。

#### 4. 成果

- ・広大な面積を有する特徴を踏まえ、従来の校区自主防災体制を見直し、校区 12 町内毎に校区社会福祉協議会、民生委員、消防団、老人クラブ、ボランティアを中心とした小規模な組織を編成することで、横の繋がりができ、より細やかな防災活動が可能になった。
- ・消防団による町内ごとの DIG 訓練を年 1~2 回実施し、ハザードマップなどによって自分が住む地域の危険性などを改めて把握でき、住民の災害に対する認識が少しずつ深まっている。
- ・避難所生活をする中で、避難者による食材の持ち寄り、調理、配膳を行うなど、みんなで助け合う姿を見ることができた。

#### 5. 苦労した点

- ・災害に強いまちづくりや、高齢社会における安心のまちづくりは、日頃から共に顔の見える繋がり“絆”の強さが重要と考えて活動しているが、個人情報取り扱いなどに対する意識の相違により、取り組みの必要性を理解してもらうことに苦慮している。

#### 6. 工夫した点

- ・町内毎の自主防災組織の編成にあたっては、出来る限り多くの方に参画をお願いし、自分たちの手による自分たちのための実現可能な組織づくりに努めている。その中で、「自分の命の大切さ、共助の取り組みの大切さや地域住民の状況把握の必要性」を丁寧に説明することで、活動に必要な情報の提供をお願いしている。
- ・取り組みの必要性を自分自身の問題として感じてもらうため、DIG 訓練において、自分たちで地域の危険箇所を具体的に洗い出し、共有している。

#### 7. 今後の目標・課題

- ・防災組織を整えても、実際に機能しなければ意味がないこと。また、校区住民が共通の危機感を持ち、自ら意識改革ができるよう、日頃の訓練や災害体験を生かしながら、より良いものへと仕上げていきたい。
- ・自助・共助の活動を通して、地域住民の“絆”が芽生え、若い世代と地域の結びつきと高齢者同士の助け合い・支え合いのできる校区を目指したいと考える。

#### 皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・昭和 3 年、昭和天皇の大嘗祭における「主基斎田」候補地の条件で、“人情味豊かな校区”として選ばれたことが先人からの伝えであり、お田植舞・脇山米・脇山茶などが受け継がれてきた。この“食と歴史と文化”が豊かな脇山校区で、住民のみなさんが生涯安全に安心して暮らしていくため、日頃からの活動を通し、地域が一体となった、地域の強い“絆”づくりを目指していきたい。

脇山の風景



「お田植舞」



田植えの様子



DIG訓練の様子



防災訓練の様子



# 灯明まつり ～みんなで創る ふるさと内浜～

西区 内浜校区自治協議会 会長 佐伯 利夫  
内浜校区灯明まつり実行委員会 会長 渡邊 彰

## 校区の特徴

- ・西区役所・西市民センター・西保健福祉センター等の行政施設が集中し、近くには地下鉄姪浜駅もあり、各種交通機関のターミナルとして発展している。
- ・古くからの住民と新しい住民が共存するまちで、唐津街道や歴史的な史跡・名刹が点在する一方、近年大型商業施設、大規模なマンション建設に伴い若手層が増加している。
- ・平成22年度に校区分割。少子化の現代、出生率も高く若い世代が多い元気のある校区である。

### 【校区の現況】（令和元年9月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
15,388人	7,852世帯	2.0人	2,752人（17.9%）

## 活動について

### 1. 概要

- ・公民館前の公園で「灯明まつり」を開催する。実行委員会を立ち上げ、灯明の図案、日程等を企画し、制作作業も行う。啓発活動として、ポスター・チラシを各自治会に掲示・配布する。また、小学生に人権標語と絵を描いてもらった灯明を制作する。当日は実行委員を始め、ボランティア、子どもたち、地域住民と一緒に準備し灯明を灯す。

### 2. きっかけ

- ・近年増大した高層マンションはプライバシーを重視した構造であり、ライフスタイルの変化も相まって住民同士の繋がりが十分とは言えない。住民同士の繋がりを深め、地域への愛着を持てるように、いつまでも記憶に残るものをしたい。また、子どもを接点とした住民のふれあいの輪を広げ、住民が地域活動への関心を持つ第一歩にしたい。

### 3. 経緯

- ・平成27～29年度は、公民館チャレンジ事業として「灯明まつり」を実施し、平成30年度からは自治協議会と公民館の共催で実施することとなった。これまでと同じようにボランティアによる実行委員会を組織して取り組んでいる。

### 4. 成果

- ・参加者が地域行事に参画しているという自覚を持ったり、地域の素晴らしさを実感し、このような活動体験をすることで互いの連帯感も生まれた。また、人権の集いと同時に開催し、人権が大切にされるまちづくりにつながっている。

## 5. 苦勞した点

- ・半年前から準備するため、制作した灯明（5,000 個）の保管場所に苦勞する。また、一夜限りの行事なので天候が心配である。（幸いにも過去4年は天候に恵まれた）

## 6. 工夫した点

- ・多くの方に参加してもらうために、公民館だよりやブログで広報している。

## 7. 今後の目標・課題

- ・地域行事に参画しているという活動体験の場として長く続けていくことが大事、今後も継続していきたい。

### 皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・準備は大変でしたがスタッフと力を合わせて灯明まつりを成功させた達成感は何よりも得難いものです。「今年も素敵な灯明見せてください」と材料のペットボトルを持って来て下さった地域の方の声は励みになりました。

作業



色水づくり



準備



準備



点火



## 地域にあった防災教室

共創① (一社)福岡市土木建設協力会 防災委員会 委員長 城本 哲也

### 企業の概要

福岡市内に本店を有する土木建設業者を会員とする一般社団法人であり、土木建設業に関する技術等の調査・研究などを行っている。

集中豪雨等により福岡市内で災害等が発生するおそれがある時や既に発生したという時には、市内一円に事業所を構えている当協力会の会員が、福岡市からの出動要請により直ちに現場に駆け付ける。この緊急対応等により市民の皆様の生命・財産をお守りしている。

### 活動について

#### 1. 概要

- ・当協力会では、地域の防災意識向上に寄与できるよう、会員に防災士の資格取得を促している。現在では、100名を超える資格取得者があり、その防災の知識と日頃の業務で培った経験を活かし、地域住民向けの防災教室を企画・実施している。

#### 2. きっかけ

当協力会・防災委員会では、公共工事施工に関連し「災害避難場所・ルート」や「AED（自動体外式除細動器）設置場所」を記した『防災看板』を工事現場に設置するなどの、地域連携防災活動に取り組んでいる。

その活動の一環として、防災教室を実施している。

#### 3. 経緯

直近の有住校区での防災教室は、共創コネクターを通じて開催希望校区の募集を行い、実施することとなった。内容については、有住校区の自治協議会の方と打ち合わせを行い、住民の関心が高い水害時の対応についての話題と、熱中症の話題を中心にした防災教室を行うこととした。

#### 4. 成果

これまでに、合計4回の防災教室を開催している。

2019年8月3日に開催した、有住公民館での教室は、地元住民約20名の方々にご参加いただいた。

#### 5. 苦勞している点

我々が防災教室をやっていることの認知度向上。

地域からの要望があれば、市内どこへでも伺う。

## 6. 工夫している点

一般的な防災の知識を伝達するだけの内容ではなく、開催地付近の実地調査を行った上で、地域住民の方にとって実感のわきやすい内容にするよう心がけている。

例えば、有住校区での教室では、「室見川が氾濫した場合」どこにどう避難するかといった話題を交えた。

自分たちが住んでいる場所についてのリアルな話であるため、参加者の皆さんもより真剣に耳を傾けてくれる。

## 7. 今後の目標・課題

着実に防災教室の開催地を増やしていくこと。

### 皆さんにぜひ伝えたいこと

防災活動は、日頃の備えと実践的な知識が必要となる。

災害が起こる前に、ぜひ知っておく機会を作ってみてください。

### 有住公民館での防災教室の様子



資料を熱心に見ていただいています



防災グッズも展示しました



防災教室を開催したい校区、募集中！

開催無料 & 要申込み

# お住まいの校区で 「身近な防災」について 学んで、考えてみませんか？

「防災士」の資格を持った「一般社団法人 福岡市土木建設協力会 防災委員会」のメンバーが、社会貢献活動として行っている「防災教室」開催のご案内です。実地調査を踏まえた防災講座や防災クイズを、お住まいの校区で開催しませんか？自治協議会や公民館の皆さまのお申込みをお待ちしています。

## 【講師】一般社団法人 福岡市土木建設協力会 防災委員会

福岡市土木建設協力会は、公共工事の施工に関連し「災害避難場所・ルート」や「AED(自動体外式除細動器)設置場所」を記した「防災看板」を工事現場に設置するなど、日頃より地域連携防災活動に取り組んでいる組織です。その活動の一環として、専門知識を存分に活用した「防災教室」を開催しています。



## こんな皆さんにオススメ！

- \*校区で防災への取り組みを始めたいが、あまり知識がない
- \*子どもたちにもわかりやすい防災講座をやりたい
- \*自分たちが住む町について、災害時に危険な場所などを知りたい
- \*災害時に役立つ実践的なスキルを体験しながら身に付けたい

## 応募条件・開催時期など

- \*自治協議会や公民館など、団体単位でお申し込みください
- \*開催時期はお申込み後、個別に調整させていただきます
- \*実施前に、内容の打合せをさせていただきます

お申込み先・お問い合わせ先

 **ふくおか共創プロジェクト**  
CO-CREATION PROJECT FUKUOKA

共創コネクター ☎ 070-7582-0497  
(代表電話) ✉ info@ccp-f.jp

下記の内容を、お電話かメールにて、お伝えください

- ①校区名(団体名)
- ②連絡担当者名
- ③ご連絡先(電話番号 or メール)

## 町内会とみんなで支える買い物支援

共創② 月隈校区 金隈新町町内会

医療法人相生会 金隈病院 地域医療連携部

会長 谷口 達美

係長 浅井 綾子

### 地域の概要

月隈校区は、博多区の東南部に位置し、東側は糟屋郡志免町と接し、西側には県道福岡日田線（旧国道3号）が通り、南側は大野城市、北側は福岡空港と接しており、博多区内で2番目に面積が大きい校区である。

今回、取り組みを行った金隈新町は、戸建・マンションともに校区の中でも住宅が多いエリアである。

### 企業の概要

医療法人相生会 金隈病院は、昭和54年に開設され、40年を迎えた病院である。

地域連携活動を充実させる目的で、平成29年に「地域医療連携部」を発足している。

地域の皆様が安心・信頼してご利用いただける病院として、医療連携、介護連携、地域の方々のコミュニティ作りにも、より一層力を注いで行きたいと考えている。

### 活動について

#### 1. 概要

- ・金隈病院の車両（7～8人乗り）を活用し、日頃買い物に不便を感じている町内の住民向けに月1回程度のペースで、買い物支援サービスを実施している。
- ・町内会長や民生委員さんから地域のニーズを探っていただき、希望者を募っている。  
買い物当日は、自宅付近まで迎えに行きスーパーへと向かい、買い物後に、また自宅まで送っている。
- ・運転は病院のスタッフが行っているが、買い物中の見守りや送り迎え、荷物の持ち運び等は地域住民のボランティアや、付近の介護老人保健施設のスタッフなどにもサポートいただいている。

#### 2. きっかけ

世帯数が多いものの、商店等は少なく、買い物には移動が必須となるが、町内には狭い道や坂道が多い。また、最寄りの公共交通機関にはバスがあるが、1時間に1～2本と、便数が少なく便利とは言えない状況のため、日常生活の買い物に苦勞する高齢者が多いことが地域の課題としてあげられた。

### 3. 経緯

金隈病院から地域に向けて、何か役立てることはないかと企画を考えることから始まった。地域でどんな活動が求められているか、住民にヒアリングをしたところ、買い物支援のニーズがありそうだとわかり、共創コネクターとも連携をし、町内に詳細なニーズ調査のアンケートを実施した。

その後、具体的な利用者の掘り下げ、適切なルート設計、運用の仕方など、地域の皆さんと会議を重ね、実施につながった。

### 4. 成果

現状では、月に1回程度のペースで買い物支援を実施しており、各回の利用者の満足度はとても高い。利用者は、いつもの買い物より少し重たい商品を購入したり、移動中には談笑を楽しんだりされている。

「すごく助かる」、「いつも楽しみにしていて、次回の日をカレンダーに書き示している」など、嬉しい話を聞くことが多い。

### 5. 苦労している点

- ・1点目は移動車両の確保。

住民ニーズも増えてきた今、病院の車1台で対応するのが今後難しくなってくる場合もある。

- ・2点目は活動に財源がないこと。

現状、補助金等ももらわずに運行をしているため、病院の状況の変化などにより、活動が難しくなる可能性がある。

### 6. 工夫している点

もちろん、無料で乗車できるものであるが、参加者の安心と活動の責任範囲を明確にするため、利用者の皆さんに、利用するための誓約書にサインをいただいている。

また、買い物支援終了後には、運営スタッフとボランティアのメンバーで毎回反省会を行い、よりスムーズな運営に努めている。

利用者の声も積極的に聞くようにしており、ニーズに合わせた柔軟な運行を目指している。

### 7. 今後の目標・課題

- ・未長く持続をしていくために、なるべく関係者全員の負担が少なくなるように仕組み作りを進めたい。

また、人的支援・金銭的支援どちらの面においても、サポートいただける企業を増やしていき、みんなで支える買い物支援の取り組みにしていきたい。

#### 皆さんにぜひ伝えたいこと

運営は大変だが、とても地域の方に喜んでもらえる取り組み。

一緒に支援いただける方、いつでも募集しています！

**購入した荷物を積み込む様子**



**買い物に向かう時**



**自宅前までお見送りします**



**住民ボランティアの方がいることも非常に大切です**



## 長谷ダム水がめまつり

### ～歴史豊かな自然と資源を活かしたふれあいと交流～

東区 香椎下原校区自治協議会 会長 丸岡 良光  
香椎下原校区自治協議会 事務局 岡野 弘幸

#### 校区の特徴

- ・東区の中でも一番東方にあり、立花山と三日月山山麓にある長谷ダムと三日月湖を抱えた自然豊かな校区である。
- ・立花山山頂には、鎌倉時代の末期に豊後の大友氏が築き、戦国時代末期には後に柳川藩主となる立花宗茂も治めたといわれる山城・立花城跡があり、周辺には特別天然記念物に指定されているクス原生林が見られる。
- ・立花城址や長谷ダムは「アメニティ百選」にも指定され、東区以外の多くの方々からも身近な自然に触れ合える場、いこいの場として親しまれている。

#### 【校区の現況】（令和元年9月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
13,885人	6,933世帯	2.0人	3,062人（22.1%）

#### 活動について

##### 1. 概要

- ・協議会は14の町内会・自治会と18の地域団体で構成されており、それぞれの団体が様々な活動を日常的に行っている。
- ・地域全体でのまちづくりを進めるために、協議会で長谷ダム水がめまつり(25回)、香椎下原文化祭(31回)、どんど焼き(10回)、しもばる音楽会(20回)の4つの実行委員会を運営し、住みやすい安全なまち、そして活力ある素晴らしいまちづくりを目指している。

##### 2. きっかけ

- ・協議会で運営する4つの実行委員会のうち、最も規模が大きいものが長谷ダム水がめまつりである。
- ・平成7年に、長谷映画祭を公民館の生涯学習支援事業として実施することとなった。同じ時期に、長谷ダムの供用が始まり、また大渇水を経験したことから、「ダムのある校区に居住する私たちが率先して水のありがたさに感謝し、ダム建設の苦労を忘れないために『水がめまつり』も一緒にやろう」という熱い思いから取り組みが始まった。

##### 3. 経緯

- ・第1回は平成7年10月に「長谷映画祭&水がめまつり」として、地元産品の「青空市」、香椎第3中学校吹奏楽部ほか、地域の皆さん手作りの「水がめまつり」、名画サウンドオブミュージック上映の「映画祭」の3部構成で実施した。

- ・翌年以降は、自治連合会を中心に、青空市と水がめまつりの内容を拡充し、「長谷ダム水がめまつり」として毎年実施。令和元年も10月に第25回目を実施した。

#### 4. 成果

- ・多くの地元関係者の協力のもと、四半世紀にわたり継続され、東区の秋の風物詩として定着している。

(協力の一例)

地元保育園や小中学校、大学、各種チームのステージイベントや祭り運営への参加

JR香椎駅の協力によるJR九州ウォーキングコース組み入れ

香椎原病院の協力によるノルディックウォーキングの同時開催

福岡市東体育館指導によるリラックス体操

地元商店等の協賛による資金協力（令和元年度：43件）

#### 5. 苦勞した点

- ・屋外でのイベントのため雨天の場合の代替方法がない。これまで中止したことはないが、天候の変化により、まつりの途中から規模縮小を余儀なくされたことが数回あった。

#### 6. 工夫した点

- ・自治協議会で実行委員会を運営することで、協議会傘下の自治会・町内会や各地域団体の協力体制を確保することができ、お祭り運営の実行部隊やステージイベント参加者の確保に寄与している。

#### 7. 今後の目標・課題

- ・目標：事業の継続
- ・課題：参加者の固定化及び高齢化による減少と新たな担い手の掘り起こし。

#### 皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・このような大規模なまつりを、25年間という長い期間にわたり実施できたのは、地域全体で協力し、知恵を出し合ってきた成果です。今後も地域一体となり協力し合い、誰もが楽しめるまつりを継続していきたいと思えます。

香椎宮での祈願



三日月橋での祈願



開会式



青空市テント



にぎわう場内



ジャズ演奏



# 敬老秋の観劇会 みんなでつながろう！東吉塚

～東が吉！ 笑顔が中吉！！ 絆が大吉!!!～

博多区 東吉塚校区自治協議会 会長 本石 満里子  
東吉塚校区自治協議会 副会長 井本 佳名子

## 校区の特徴

- ・ JR 吉塚駅の主に東側に広がる地域であり、陸・海・空、全ての交通の要所までの距離が近く、交通の利便性が高い。
- ・ 吉塚駅の東西に県合同庁舎や市民病院などの公共施設が立地し、主要道路である県道福岡篠栗線沿いには商業施設が立地しており、住宅・商店・倉庫・工場などが混在している。
- ・ 博多駅まで一駅という交通の利便性の良さから、人口・世帯数とも増加している。

【校区の現況】（令和元年9月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
12,985人	7,384世帯	1.8人	2,085人（16.1%）

## 活動について

### 1. 概要

- ・ 校区に住む高齢者の敬老を目的に、今回初めての試みとして、『敬老 秋の観劇会』と題して、大衆演劇の役者の方を招き、東吉塚小学校の体育館で観劇会を開催。
- ・ 役者の方のお色直しの間には、地域サークルによる演技を組み込み、サークル活動の成果も披露。

### 2. きっかけ

- ・ 以前は小学校の体育館で敬老目的の食事会を行っていたが、開催が途絶えていた。
- ・ その後、独居の高齢者を対象に会食会を実施していたが、会食会の対象にならない高齢者もあり、また会場の関係で人数の制限もあったことから、校区に住む高齢者の多くに楽しんでもらえるイベントを開催したいと企画した。

### 3. 経緯

- ・ 敬老を目的としたイベントの復活を前年度から計画する中で、年度当初に予算計上し、校区の承認を得た。
- ・ ダメもとで校区近隣にある博多新劇座へ交渉したところ、快く趣旨に賛同していただき、役者の方の紹介等の協力を取り付けたことから、「敬老 秋の観劇会」の開催に至った。

#### 4. 成果

- ・約190名の来場者があり、盛況であった。
- ・プロの舞踊・演技を間近で観ることができ、普段劇場まで足を運ぶことができない高齢者からは「役者さんを間近で観られるとは思わなかった!」「楽しかった!感動した!」と笑顔と感謝の声をいただき、好評を得ることができた。
- ・受付や案内は校区自治協議会の各部会で分担して行い、小学生スタッフは高齢者のトイレまでの誘導を行うなど、高齢者と触れ合う機会にもなり、幅広い年代が関わることで世代間交流の場にもなった。

#### 5. 苦勞した点

- ・他の校区事業との関係で各種団体との調整が困難だったことから、全体会議が1回しか設けられず、当日の連携不足を心配したが、関係者の協力により予定通りに開催できた。
- ・会場の東吉塚小学校校体育館から遠い町内の高齢者も参加できるように、近隣の社会福祉法人へ協力をお願いし、送迎バスの提供を取り付けた。
- ・イベント終了までには他にも色々とありましたが、苦勞したと感じたことはありません!

#### 6. 工夫した点

- ・校区の各種団体の他に小学生、企業、外国人留学生もスタッフとして従事してもらうことで、地域全体で作り上げるイベントとした。
- ・演目と演目の間には地域の「よさこいダンス」サークルによる演技の披露も取り入れることで、地域サークル活動の発表の場を提供した。

#### 7. 今後の目標・課題

- ・予算などの関係もあり毎年開催できるイベントとはならないが、隔年で開催するなど、事業を継続していけるように取り組んでいく。
- ・最終的には子どもから高齢者まで幅広い世代を対象とした内容で、敬老の目的が達成できるようなイベントにしていきたい。

#### 皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・一念発起したら、貫き通すことが重要。そうすれば自然と道は開け、校区の皆さんも付いてきてくれる。
- ・「校区のために何かをやろう!」という意欲・想いを持つことが大切。

準備風景(たくさんの方に協力をいただきました。)



準備風景(小学生もお手伝いします。)



受付風景(皆さん楽しみにされています。)



校区の白川董さんによるポスター画



女踊りに皆さんうっとりされています。



よさこいダンスサークルも負けていません。



一人舞踊劇「暎の母」では目頭が熱くなりました。



会長からのお礼に、大川龍昇さんもニッコリ



## 高宮校区ビジョン ～いつまでも住み続けたい楽しいまち高宮～

<b>中央区</b>	<b>高宮校区自治協議会</b>	<b>会 長</b>	<b>山下 輝彦</b>
	<b>高宮校区ビジョン 安全・安心なまち部会</b>	<b>部 長</b>	<b>国広 奈穂子</b>
	<b>高宮校区ビジョン 環境の良いまち部会</b>	<b>部 長</b>	<b>豊福 茂隆</b>
	<b>高宮校区ビジョン 絆のあるまち部会</b>	<b>部 長</b>	<b>占部 操子</b>

### 校区の特徴

- ・中央区の南東に位置し、西鉄大牟田線，城南線，筑肥新道（旧国鉄筑肥線），那珂川などに囲まれた地域で，都心に近く買い物や交通の利便性が高い閑静な住宅地である。
- ・近年，都市基盤が整備されるにつれて住宅が増え，さらにマンションの建設が多くなり，人口が格段に伸びている校区である。
- ・20～30歳代の人口割合が高い特徴を持つ。

#### 【校区の現況】（令和元年9月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
13,490 人	9,378 世帯	1.4 人	1,850 人（13.7%）

### 活動について

#### 1. 概要

- ・平成28年度に校区の目指す姿「校区ビジョン」を策定し，29年度よりビジョン実現に向けて活動中。
  - 校区ビジョン：「いつまでも住み続けたい楽しいまち高宮」
  - 3つの推進部会「安全・安心なまち部会」，「環境の良いまち部会」，「絆のあるまち部会」に分かれ活動。

#### 2. きっかけ

- ・近年，マンション建設の増加に伴って人口が増加し，コミュニティ意識の希薄化や環境悪化への懸念が顕在化しつつある中，校区の魅力である便利で暮らしやすい環境を再点検し，今後の取り組むべき課題を討議する中で，今後の自治活動の羅針盤を策定することとなった。

#### 3. 経緯

- ・平成27年11月「自治活動の課題と方向性について」校区自治協議会，社会福祉協議会役員にて協議し，「高宮校区ビジョン」の策定を決定。
- ・その後「課題検討会議」を経て，平成28年9月に行政支援のもと「第1回ビジョン検討会議」のワークショップを開催。検討会議と校区住民への報告会を経て3つのプロジェクトを柱とした「推進部会」を設置し，活動を進めていった。

#### 4. 成果

- ・「安全安心なまちを実現するプロジェクト」「環境の良いまちを実現するプロジェクト」「絆のあるまちを実現するプロジェクト」に基づいて各部会が活動し，第一弾として「防災に関する情報充実」「四十川沿いの花いっぱい運動」「高宮のうたづくり」が具体化した。

#### 5. 苦労した点

- ・自治協議会の委員のみならず，広く校区住民の関心を深め参加を促すために，町内会長の理解と協力を得ることに尽力した。活動が長期にわたるため，各推進部会の活動が順調に進行するよう部会長へのワークショップと協力を仰いだ。

#### 6. 工夫した点

- ・部会メンバーは固定せず，いつでも誰でも参加できるようにした。自由な討議と楽しい活動を心掛け，部会の成果を自治活動に提言し活かせるようにしている。高宮小学校の全生徒にも「高宮のうたづくり」のアンケートを実施し歌詞となる言葉を募集した。

#### 7. 今後の目標・課題

- ・「校区ビジョン推進会議」で取りまとめたテーマや課題は多岐にわたるため，今後も，中・長期計画を策定し「いつまでも住み続けたい楽しいまち高宮」の実現のため活動を深化させていきたい。

#### 皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・自分たちが住むまちのビジョンを皆で語り，具体的な活動にしていくことが地域に広まっていけば，地域活動への理解と新しい人材発掘に貢献できるのではと期待しています。

# 高宮校区まちづくりビジョン ~いつまでも住み続けたい楽しいまち高宮~

高宮校区自治協議会  
高宮校区社会福祉協議会（平成29年2月）

## はじめに

- 市は、自治協議会制度が発足して10年目にあたる平成26年度に「地域のまち・絆づくり検討委員会」を立ち上げ、同委員会から目指す地域コミュニティの姿と共働で進めるべき取組について提言を受けました。
- 提言では、目指す地域コミュニティの姿として、「絆をつむぐまち“ふくおか”魅力と笑顔にあふれる地域を未来へ」を掲げ、「魅力づくり」「絆づくり」「担い手づくり」を、市民・企業・事業者、NPO、大学等、公民館、行政が、それぞれ役割分担し、共働により推進とされています。
- 今回のビジョンづくりは、この提言における魅力づくりの一環であり、校区の目標等の検討を行う自治協議会を応援する市の支援を受けて、取り組まれました。

## 校区の環境を守り続ける自治活動の羅針盤づくり

### 背景

- 都心から近く、交通や買い物などの利便性が高く、閑静な都心住宅地としての環境を備える校区
- 一方で、近年のマンションの急増による人口増加により、コミュニティ意識の希薄化や環境の悪化への懸念、また店舗や事務所の出店増加により、騒音等の新たな課題が顕在化

### 目的

- 校区の魅力である便利で暮らしやすい環境を守り、「いつまでも住み続けたい楽しいまち高宮」を目指し、自治活動に携わる町内会長をはじめ、各種団体が、校区の目指すべき姿とその実現に向けた活動を共有し、これからの自治活動の羅針盤となるものとして策定

### 策定手順

- 自治協議会・社会福祉協議会役員により校区課題検討委員会立ち上げ  
(平成27年11月)
- 自治活動のコンセンサス検討

### ワーキングセッション

- 第1回：目指す姿の共有（平成28年9月29日）
  - 校区の現状と校区課題検討委員会の検討報告
  - 校区の現状とありたい校区の姿の共有
- 第2回：目指す姿の実現に向けての活動の検討（平成28年11月10日）
  - プロジェクトの検討及び優先プロジェクトの選出



### 現状と課題

ビジョン策定にあたり、今一度、校区の現状と課題について話し合いました。

高宮の良いところ	高宮の悪いところ	分類	高宮の悪いところ
<ul style="list-style-type: none"> <li>災害は少ない</li> <li>犯罪は少ない（少なくなつた）</li> <li>街灯が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>那珂川の水害への懸念</li> <li>防災体制の不備</li> <li>まだまだ街灯が不足</li> <li>通学路の交通量が多くなって危険</li> </ul>	安全・安心 (治安・犯罪)	高宮の悪いところ
<ul style="list-style-type: none"> <li>天神・博多駅に近い（徒歩で行ける）</li> <li>電車やバスへの乗り換えが便利</li> <li>スーパー、病院が近くにある</li> <li>校庭が広くなった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜中に騒ぐ人がいる</li> <li>道路が狭い、テコポコ</li> </ul>	利便性 (交通・買物等)	高宮の悪いところ
<ul style="list-style-type: none"> <li>都会の中にあつて静か</li> <li>イチョウ並木等、緑が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こみ出し、交通などのマナーの悪さ</li> <li>地域活動参加者の減少</li> </ul>	住環境	高宮の悪いところ
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の活動が活発</li> <li>各種団体のつながりが強い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンション増加によるつながりの希薄化</li> <li>外国人の増加による新たな課題の顕在化</li> </ul>	地域活動	高宮の悪いところ
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域小学校、公民館との連携が良い</li> <li>コミュニティセンターがある</li> </ul>		つながり	高宮の悪いところ

### まちづくりの目標

いつまでも住み続けたい楽しいまち 高宮

## まちづくりの方針

これからのまちづくりの方向性として、以下の3つを掲げます。

- 安全・安心なまち**  
災害に備え、犯罪を抑制し、交通事故のない、安全で安心して暮らすことのできる高宮とします
- 環境の良いまち**  
高宮に関わるすべての人が、美しく快適な環境を守り、創り、育てる高宮とします
- 絆のあるまち**  
子どもから高齢者まで誰もが互いに支え合い、つながる高宮とします

## 7プロジェクト

安全・安心なまちを実現する7プロジェクト		環境の良いまちを実現する7プロジェクト	
<b>もしもの時に備える防災プロジェクト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>校区防災訓練の実施</li> <li>校区防災マップの作成、提示</li> <li>防災カリキュラムの開催</li> </ul>	<b>既存の活動の継続</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災倉庫の設置（非常食、水の備蓄）</li> <li>水害の時の土嚢置き場、砂場の整備</li> <li>避難場所への誘導サインの設置</li> </ul>	<b>犯罪を抑制する防犯プロジェクト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハットロール実働団体の連携</li> <li>お巡り便りハットロールの実施</li> <li>防犯カメラの設置</li> <li>防犯灯の増設、LED化</li> <li>高齢者向け交通安全教室、自転車教室の実施</li> <li>子ども見守り隊の設立</li> <li>登下校時のハットロールの実施</li> </ul>	<b>新たに検討する活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>防犯倉庫の設置（非常食、水の備蓄）</li> <li>水害の時の土嚢置き場、砂場の整備</li> <li>避難場所への誘導サインの設置</li> </ul>
<b>子ども達の安全を守る見守りプロジェクト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>登校指導（毎月1がけく日）</li> <li>あいさつ運動の実施</li> </ul>	<b>既存の活動の継続</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>那珂川、四ノ川、一本木公園の清掃</li> <li>校区クリーン大作戦、町内一斉清掃</li> <li>企業や商店の清掃協力</li> </ul>	<b>環境の良さを保つ美化プロジェクト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>花いっぱい運動の展開（白金広場、高宮小学校PTA）</li> </ul>	<b>新たに検討する活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>気軽に清掃活動</li> <li>グリーン作戦の巡回の実施</li> <li>環境美化を守るまちの啓発活動</li> <li>（たばこポイ捨てステッカーの掲示等）</li> <li>白金通りの花一杯運動の展開</li> <li>街角へのベンチの設置要望</li> <li>公園への健康増進運動器具の設置要望</li> <li>知事公舎の地域開放と有効活用検討</li> </ul>
<b>美しい環境を創る花と憩いプロジェクト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境の良さを広めるアピールプロジェクト</li> </ul>	<b>既存の活動の継続</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>新築マンション建築協定の締結</li> </ul>	<b>新たに検討する活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>手賀神社での夏まつりの実施</li> <li>灯明ウォーキング（8月15日）の実施</li> <li>転入世帯、外国人との交流機会の設置</li> <li>趣意などに行事のチラシやポスターの掲示</li> <li>店舗協賛による夏の催事</li> <li>地域カフェ、まちカフェの実施</li> <li>校区内の長寿祝いの実施</li> <li>手助けマンとウーマンの組織化</li> <li>ラジオ体操の実施</li> <li>ちんどんオケウエスの結成</li> <li>小学生向け理工関連工作教室の開催</li> <li>子どもミュージアムの実施</li> <li>若いママ、パパのアイデアの活用</li> <li>人材バンクの設立</li> <li>自治活動研修会（若い人材を育てる）</li> <li>お宅、企業などのイベントとの連携</li> <li>お宅、企業などの窓口の組織化</li> </ul>	<b>新たに検討する活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>手賀神社での夏まつりの実施</li> <li>灯明ウォーキング（8月15日）の実施</li> <li>転入世帯、外国人との交流機会の設置</li> <li>趣意などに行事のチラシやポスターの掲示</li> <li>店舗協賛による夏の催事</li> <li>地域カフェ、まちカフェの実施</li> <li>校区内の長寿祝いの実施</li> <li>手助けマンとウーマンの組織化</li> <li>ラジオ体操の実施</li> <li>ちんどんオケウエスの結成</li> <li>小学生向け理工関連工作教室の開催</li> <li>子どもミュージアムの実施</li> <li>若いママ、パパのアイデアの活用</li> <li>人材バンクの設立</li> <li>自治活動研修会（若い人材を育てる）</li> <li>お宅、企業などのイベントとの連携</li> <li>お宅、企業などの窓口の組織化</li> </ul>

【推進会議】全体会議



【推進会議】報告会



【推進部会】安全・安心なまち

防災マップ見直し

/ 緊急避難場所使用協定書とステッカー



【推進部会】環境の良いまち

花いっぱい運動・四十川沿い整備



【推進部会】絆のあるまち

那覇市若狭公民館館長を招いての研修



【推進部会】絆のあるまち

高宮校区の歌



## 孫の手サービスボランティア ～宮竹小・中学生がお手伝い～

南区

みやたけ会  
みやたけ会 副会長/宮竹校区社会福祉協議会  
宮竹校区社会福祉協議会

みやたけ会

会長 小西 彌好  
会長 櫻井 千恵美  
事務局長 木本 千恵子

### 校区の特徴

- ・西鉄井尻駅とJR笹原駅，交通の利便性と静かな住環境に恵まれた校区。
- ・自治協議会（17町内会・1自治会と17の各種団体で構成）も安心・安全な校区づくりを目指し，公民館との協働による活発な活動の校区として充実している。
- ・小・中学校との共育が充実している校区でもある。

#### 【校区の現況】（令和元年9月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65歳以上人口（割合）
16,542人	8,817世帯	1.9人	3,207人（19.4%）

### 活動について

#### 1. 概要

- ・平成23年度から宮竹中学校の生徒数名が高齢者のお手伝いをする『孫の手サービスボランティア』として始まった活動で，徐々に参加人数が増え，平成27年度からは宮竹小学校の6年生も加わっている。現在は，『宮竹小・中学生，孫の手サービスボランティア』として，年2回，夏は『草取り物語』，冬は『年末大掃除』のサブタイトルで，活動を継続中。

#### 2. きっかけ

- ・平成22年度に校区社会福祉協議会が開催した『ボランティア養成講座』に，当時赴任されたばかりの宮竹中学校の女性校長が参加され，高齢者の方が困っているお話しを直に聞かれ，「何か中学生がお手伝いできることはないでしょうか？」との申し出をいただき，翌年の年間事業計画から取り入れる事とした。

#### 3. 経緯

- ・年2回の活動は，公民館だよりで広報し，校区内の高齢者や支援を要する方々の要望に添ったお手伝いを実施しているが，年間を通じて相談は公民館を窓口として受けている。

#### 4. 成果

- ・校区内の高齢者の方と，小・中学生が各々感謝の気持ちを伝え合うきっかけができ，子ども達は自己達成感をもてるようになったと思う。
- ・先生方も多く参加して頂いているので，学校では見られない子ども達の別の面も感じて貰えていると思う。

## 5. 苦労した点

- ・気軽にお手伝いの申し込みをして頂きたいと思うが、特に高齢者の方は来てもらう前に片づけなくては…と思われる節があり、自治協議会の運営委員会（毎月開催）で町内会長さんに直接お声掛けしてもらう必要がある。

## 6. 工夫した点

- ・子ども達に自己充実感を持ってもらうことの他に、何か喜ぶ事があってもいいのでは…と思い、社協関係者の手作りによる昼食として、夏は「地域交流ソーメン流し」、冬は「カレーの昼食とサンタさんからのプレゼント」を実施している。

## 7. 今後の目標・課題

- ・参加してくれる子ども達の数が年々増えている事もあり、高齢者の方や支援を要する方々に、気軽に依頼して頂ける環境作りをしていきたい。

### 皆さんにぜひ伝えたいこと

- ・何か場面を作り出すことで、多くの人たちとの交流が増えていく。小さな事でも、長く継続できることが、次の担い手を育てていくことになると思う。

**ボランティア、頑張るぞ！**



**公園の草取り**



**窓ガラスもピカピカに！**



**子ども達のために美味しい食事を作ります**



**「天ぷら」と伝統の「五十川飯」**



**ソーメン流し**

